



「フムフム」は
アイヌ語のあいづち

北大の食堂、バスでアイヌ語

コタンの地 ひびく言葉

「イヨシ『イカラ カンピヌイエ
ウシ』コッチャケ オロ アコシ
レパ ナ（次は工学部前です）」

これは、北海道大学で働く人が
乗るバスで1月25日から流れている
アイヌ語のアナウンスです。「工学
部」など、日本が近代化する過程で
使われるようになった言葉は、昔
からあるアイヌ語の言葉を組み合わ
せて、新しく作りました。

昨年の7月と今年の1月には、大学
の食堂で「アイヌ料理フェア」が
開かれ、4種のメニューが並びまし
た。お客さんが「オハウ（スープ）
ください」と注文したり、接客の
人が「はい、ラタシケッ（あえ物）
ですね」と言ったりして、アイヌ
料理を出すことで、食堂の中もア
イヌ語がひびく場所になりました。

北海道大学の敷地には、明治時代
の初めまでアイヌ民族のコタン（集
落）がありました。ほかにも魚を
とる設備など、くらしのあとが見つ

かっています。

北大の前身、札幌農学校の原点と
なった開拓使仮学校でも、アイヌ民
族が学びました。それ以来、現在ま
でアイヌ民族の先生や学生がいろい
ろな研究や学びを続けてきました。

しかし、1871年（明治4年）に、
アイヌ民族も日本語を話すことが義
務とされてから、アイヌ語を使うこ
とは難しくなりました。大学での
活動でもアイヌ語が使われることは
ありませんでした。

バスや食堂での取り組みは、大
学のある場所でもともと使われてき
た言葉を、もういちど大学の中にひ
びかせることになり、アイヌ民族と
してアイヌ文化を保ちながら大学の
仕事や勉強をしたい人のための環
境づくりにつながります。

インフォメーションセンターで
は、アイヌ語が書かれたマップも配
布されています。ぜひ見てみてくだ
さい。

